

観光誘客総合推進事業

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	観光文化スポーツ部	
短期アクションプラン	テーマ	テーマ5 世界に誇る山形の魅力を発信し国内外の旺盛な活力を引き込む「観光立県山形」の確立					
	施策	施策2 観光資源の高付加価値化と戦略的誘客の強化					
	目的	県内にある雪や滝などの豊富な観光資源の高付加価値化に取り組むとともに、ターゲットを明確化した戦略的誘客を展開し、旅行商品の販売を拡大する。					
	目標指標(R2)	観光消費額	2,500億円				
	策定時の実績	2,015億円(H27年)	現状	2,168億円(H29年)	主要事業	観光資源の高付加価値化	
事業名	観光誘客総合推進事業	担当課・担当	観光立県推進課 観光振興担当、美食・美酒ツーリズム推進室				
事業開始年度	平成28年度	事業終了(予定)年度	未設定				
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	国内外からのさらなる観光誘客を図るため、国内外における積極的な観光PRや観光誘客に資する各種事業を展開するとともに、受入態勢の整備を進める。						
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏ADビジョン等活用、家族旅行への助成 ・山形PR隊活動事業(きてけろくん活動委託料) ・地域資源活用交流促進事業(武将隊への補助金) ・県内周遊促進事業(周遊パスポート) ・地域活性化誘客対策支援事業(祭りだワッショイ・鍋太郎支援) ・バスツアー旅行商品助成事業 ・旧いこいの村庄内施設管理事業 ・重点テーマPR誘客促進事業 ・出羽三山シンフォニー開催事業 						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:各事業の内容に応じ効果的な実施方法としている						
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	観光PR推進事業	58,911	44,640				
	県内周遊促進事業(周遊パスポート)	10,757	8,598				
	地域活性化誘客対策支援事業(祭りだワッショイ・鍋太郎支援)	5,500	10,500				
	バスツアー旅行商品助成事業	18,000	20,000				
	旧いこいの村庄内施設管理事業		1,101				
	重点テーマPR誘客促進事業	21,046	20,671				
	出羽三山シンフォニー開催事業	19,000	19,000				
計	133,214	124,510	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	125,614	7,600				
	繰入金						
	その他特定財源						
	一般財源	7,600	116,910				
	計	133,214	124,510	0	0	0	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	令和元年度 観光者数4,700万人	活動実績	万人	4,512	調査中		
		当初見込み	万人	4,620	4,660	4,700	
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	平均宿泊数	成果実績	泊	1.22	1.28		
		目標値	泊	全国平均値(1.32)以上	全国平均値以上	全国平均値以上	
		達成度	%	92.4			
関連事業							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

おもてなし山形県観光条例(平成26年4月1日制定)に基づき策定された、おもてなし山形県観光計画(平成27年3月策定)により、本県の観光の姿は、「県民の総参加」と「全産業の参加」による観光振興施策の実施を通して、観光による国内外との交流人口の拡大を図り、本県経済を持続的に発展させるとともに、魅力ある活力に満ちた地域社会を築くことによって、「観光立県山形」を実現していくこととされている。
 当該計画では、観光流動の創出による好循環の実現を掲げ、計画の最終年次である令和元年までに、地域経済への波及の効果を示す「観光消費額」を2,500億円に引き上げることが政策目標とされているとともに、令和元年度までに「観光者数」が4,700万人を上回ることが参考管理指標とされており、おもてなし山形県観光計画に定めた目標値を設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・旅行者のニーズを取り入れた観光商品への助成により日帰り・宿泊を含め2万人を超える方から来県いただいた。 ・「きてけろくん」や「やまがた愛の武将隊」による県内外のイベント出演により、本県の観光資源や歴史・文化を広く発信した。 ・放送媒体・紙媒体・ICT等を組み合わせたメディアミックスにより、本県の観光PRを広く行うことで、本県の魅力が認知された。 ・出羽三山シンフォニーには海外メディアからも来場いただき、出羽三山の魅力を国内外に広く発信できた。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	B	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・事業によっては、業務委託業者を公募型プロポーザル方式により募集し、有識者を交えた審査会を経て選定した。 ・補助金及び負担金の支出については業務実施に必要な不可欠な費用に限定している。 ・コンサート開催については負担金の他、入場者より料金を徴収。 ・事業の実施にあたっては、関係機関と連携し、効果的に実施できた。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
の役割 妥当性 分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	多方面・多分野にわたる事務事業であり、事業間の相乗効果の発揮、関係機関との全体調整に留意しながら、複合的に観光誘客に取り組んでいる。
今 改 善 点 等 題	国内外からの更なる観光誘客を図るため、国内外における積極的な観光PRや観光誘客に資する事業を展開するとともに、受入態勢の整備を進める。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- ー: 該当しない